高校を都会への人材流出装置としないためにできること

高校のキャリア教育が変わると、地域の未来が変わる　シンポジウムを開催

全国の高校教員や行政関係者、地域づくりNPO 等が参加し、行動計画を作成 2/21(土)

東北芸術工科大学コミュニティデザイン学科(学科長　山崎亮／山形市上桜田)は、全国の高校教諭、教育委員会関係者、行政職員、社会教育関係者、地域づくりNPO などを対象に、シンポジウム「高校を人材流出装置にしないためにできること」を2月21日(土)に開催いたします。

【シンポジウム３つの視点】

1. **超過疎地域×高校**　高校の存続が地域の存続に直結！
2. **地域×農商工高校**　合併を機にカリキュラム改変！
3. **地域×進学校**　リアルな学びが学力アップに！

地方創生が叫ばれ、地方の生き残りの厳しさが現実味を帯びている今、教育ができることは何か。多くの子どもたちは、小中学校で「ふるさと教育」を受けていますが、高校になると地域との接点はなく、自分たちの故郷について知らないまま、進学や就職で都会へ出ていってしまう現状にあります。地元の魅力も課題も知らずに出ていく若者たちは、地元に戻る動機が希薄であり、このままいけば、地方から若者がいなくなり、高校そのものの存続も危ぶまれます。地域は若者との活動を欲しています。高校生も地域で学ぶことで成長します。「高校は地域に何ができるのか？」「地域は高校生に何ができるのか？」。すでに実践している高校教員を迎えて講演や話題提供をいただいた後、参加者同士が「高校は地域に、地域は高校に何ができるのか？」をテーマにワークショップを行い、行動計画を提案します。また、高校間のネットワークを形成し、継続的な取り組みにすることも視野に入れ今回のシンポジウムを開催します。

人口減少社会が進む東北・山形でのこの新たな取り組みについて、取材のご検討をお願いいたします。

■概　要

日　　時：2015 年 2 月 21 日(土)13:00～17:00

会　　場：東北芸術工科大学(当日の実施教室については、お問い合わせください)

参加対象：全国の高校教諭、教育委員会関係者、文科省、行政職員、社会教育関係者、地域づくりNPO

■内　容(予定)

基調講演：「地域再生×高校キャリア教育」 浦崎太郎氏(岐阜県立可児高等学校教諭)

話題提供

「探究科の取り組み」 眺野大輔氏(富士市教育委員会　富士市立高等学校教育推進室指導主事)

「中高生が地域活動に参加する意義」

大脇正人氏(島根県立隠岐島前高校卒・早稲田大3年)

「高校生を受け入れる地域土壌のつくり方」

岡崎エミ(東北芸術工科大学コミュニティデザイン学科准教授)

ワークショップ：

「高校は地域に、地域は高校に何ができるのか？」

(ファシリテーター：本学コミュニティデザイン学科1年生)

アイスブレイク、テーブルワークショップ、発表、講評、ふりかえり

お問合せ　東北芸術工科大学広報室 TEL:023-627-2246

なぜいま、高校が地域課題に取り組む必要があるのか

現状の危機意識

①人材流出による地域や高校の衰退

・進学・就職で都会や海外に巣立った人材が地元に戻ってこない
・人材流出で文化や産業の継承ができなくなり、地域が衰退する
・高校に新入生が集まらなくなり、進学・就職実績も悪化する

②学びと社会の剥離による生徒の意欲低下

・学んだことを社会で使える機会は少なく、学ぶ意欲が高まらない
・勉強は自分のためで、社会をよくするために学ぶという意識は低い
・高校生が社会で活躍できる機会は少なく、自己有用感を得られない

③未来で必要な力と高校教育のミスマッチ

・少子高齢化や産業衰退などの課題の解決策は大人もわからない
・社会が求める協働や課題解決の力は一斉授業だけでは育たない
・大学の変化（能動的学習の増加など）に高校が追いついていない

「地域課題と向き合う教育」によって目指す未来

①この地で学んだ人が地域や高校を活性化

・地域の魅力を知った人材が、地域に残る、外で学んで戻ってくる
・地域の課題を知った人材が、内側や外側から地域をより良くする
・高校に意欲的な新入生が内外から集まり、進学・就職実績も UP

②社会に貢献しようと生徒が主体的に学ぶ

・地域の課題解決のためにはいろいろ学ぶことが必要だと実感する
・地域や社会のために「自分ができること」を考え、そのために学ぶ
・社会の中で自分が役立てる実感が強まり、自信と意欲がみなぎる

③協働による未来の創造を実践の中で学ぶ

・高校生が大人とも協働しながら、最先端の地域課題の解決を目指す
・地域課題に取り組む中で、協働する力やものの見方をみがく
・高校での課題解決学習の経験を生かして、大学でより学びを深める

引用：リクルート発行「キャリアガイダンス」Vol.404 より